

2025年度 第2回須坂市環境審議会 議事録（要旨）

【日 時】 2025年1月26日(月) 午後2時～午後3時20分

【場 所】 須坂市役所 本庁舎 305 会議室

【参加者】

出席委員：中村 正、久保田 武、師岡京子、関谷 敏、早川隆一、杉本 淳、中屋眞司、西原秀次、穂刈哲明、杉田恵美子、河原輝久

欠席委員：山下徹也、山岸和人、竹前美枝子、児玉慎一郎、飯尾昭一郎、山下浩史

事務局：鈴木市民環境部長、田幸生活環境課長、新井清掃センター所長、荒井課長補佐兼環境政策係長、元田課長補佐兼エコパーク振興係長、中澤清掃センター所長補佐、森井環境創出係長、森廃棄物対策係長、中西主査、業田事務員

【配布資料】

- ・資料1 第三次須坂市環境基本計画 改定案
- ・資料2 須坂市一般廃棄物処理基本計画 改定案

1 開会（事務局：田幸課長）

2 あいさつ（事務局：鈴木部長）

3 議事（進行：久保田会長）

(1) 第三次須坂市環境基本計画中間見直しについて（事務局：荒井補佐）

資料1に沿って事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員：市として改めて「デコ活宣言」をする予定はあるか。

事務局：宣言の予定は無いが、活動例に挙げていることは積極的に推進していきたい。

委員：第4章について、二ホンジカの年間駆除頭数の目標値が30頭から200頭へと、かなり増加しているが、達成可能な数字なのか。

事務局：担当課から2024年度実績が174頭と聞いており、実現性は高いと思われる。

委員：1人1日当たりのごみの排出量が2024年度現状値711gから2030年目標値が722gとなっている。減少すべき目標値を増加させた理由は何か。

事務局：計画当初と現状で乖離があるため、過去5年間平均より再度算定した。

委員：地下水利用に関連し、計画と直接関係はないが、毎月市が行っている地下水位の測定結果の公表について、市ホームページを見ると数字だけの掲載である。審議会での資料のようなグラフや位置図を掲載してほしい。また、湧水についても同様に情報掲載するべきではないか。なお、地下水利用については、これまで3年間の地下水位データを見ると水収支バランスが取れている印象を受ける。

事務局：ホームページの掲載内容は追加や工夫したい。湧水の位置については、保護のため場所特定がされない配慮を求める意見もあるため公開は差し控えたい。

委員：インター須坂産業団地の開発により市全体のエネルギー使用量が増加し、また、周辺で追加の開発計画があると聞いている。産業が活性化すれば物流も増加し、運輸部門の温室効果ガス排出量も増加すると考えられる。それらの背景がありながら、温室効果ガス削減量の目標を厳しく変更するのは矛盾しないか。必ずしも国の目標値に合わせる必要はないのでは。

事務局：温室効果ガス削減量については内部でも議論があった。しかし、温室効果ガス排出量等の不確定要素が多く、市独自の目標値を定める場合、設定根拠が乏しくなるため国の目標に合わせた。

委員：カーボンニュートラル宣言当時と条件が変わってきているので、変動も十分あるという記載を入れておくべきではないかと考える。

事務局：産業の活性化を踏まえた上で、記載の方法を調整したい。

委員：運輸部門目標値について温室効果ガス排出量 46%削減とあるが 35%ではないか。

事務局：誤記のため、運輸部門温室効果ガス排出量は 35%削減に修正したい。

委員：第4章の具体的な取り組みに「エコドライブの普及啓発、浸透」とあるが、改定前に記載のあった「エコドライブ講習会」が削除された理由は何か。また、第5章「1.地球温暖化の防止」の事業者欄「通勤や移動にはできるだけ公共交通機関や自転車を活用します」とあるが、主体があいまいなので「～の活用を推奨します」といった表現はどうか。

事務局：エコドライブ講習会事業が廃止されたため削除した。エコドライブの普及啓発は引き続き実施していく。第5章の事業者の表現については、妥当な指摘のため修正したい。

委員：第4章の温室効果ガスの目標値は吸収量が加味されていない。排出量削減のみで192千トン難しいと思うが、吸収量も含めた差し引きであれば達成見込みがあると思う。吸収量を今回計画に反映させることは別として、市民にはカーボンニュートラルであることを意識付けしていく必要があると考える。

事務局：指摘の通り最終的な目標は、山林・緑地等の吸収量を含めて差し引きゼロとするものである。須坂市も同様の目標を掲げていきたいと考えている。

委員：令和8年に予定されている鳥獣被害防止計画更新に併せて、市民に向けて鳥獣被害の実態が分かるツールを公開できないか。

事務局：所管の産業振興部に環境審議委員から意見があったことを情報共有したい。

委員：第4章「3.ごみの削減・資源の循環」において、排出されたごみを削減する方法のほか、フードロス削減や3010運動等、ごみを出さないことについて記載をしてはどうか。

事務局：キーワードとして記載するか検討したい。

(2) 須坂市一般廃棄物処理基本計画中間見直しについて（事務局：森係長）

資料2に沿って事務局より説明。これに対し委員より次のような意見があった。

委員：16 ページ「イ プラスチックごみ一括回収」で“ごみ処理施設及び体制などを検討”とあるが、今後どのように考えているか。

事務局：対象の硬質プラスチックは、現状の設備で破砕処理できないため可燃ごみとして処理している。年に4回実施している市役所前拠点回収で収集したものは、資源としてリサイクルしている。施設更新のタイミングで硬質プラスチック処理に対応したいが、財政的な理由で時期等は未定である。

委員：近隣市町村ではどのような状況か。

事務局：松本市は全域で実施、長野市は現在一部地域で実施しており 2026 年度から全域で実施予定と聞いている。

委員：14 ページ表 2-1-6 の数値目標について、現状値に更新すべきではないか。

事務局：妥当な指摘のため現状値に更新したい。

委員：10 ページ「(2)ごみの組成」の可燃ごみに資源物が9%混入していたとあるが、具体的にどのようなものか。

事務局：紙類、容器包装プラスチック等が主である。

委員：ピートモスと燻炭を混ぜた生ごみたい肥化基材を、市とエコサポートすぎかで販売しているが、原価に対して販売価格(1袋100円)が安すぎる印象がある。値上げは検討しているか。

事務局：事業当初の原価は300円程度だったが現状は480円である。2026年度から販売価格を1袋200円程度に値上げすることを検討している。

委員：エコサポートすぎかについて、構成員の高齢化等により厳しい運営状況にあるので、今後の在り方を検討してほしい。

事務局：ボランティア募集をしているがなかなか応募が来ない状況である。今後の運営については検討したい。

委員：参考資料ページ「事業系ごみ」可燃ごみの2025年度以降の推計について、2025年秋に開業した大型商業施設の量は反映されているか。

事務局：十分な情報が無いため算定には反映されていない。開業からこれまでの実績を見ると前年より50~80トン多い。

(3) その他

事務局より次回審議会は第三次須坂市環境基本計画の完成版送付による文書開催とし、市長への答申は会長のみで対応する案を委員に提示。 異議なし。

4 その他 特に無し。

5 閉会